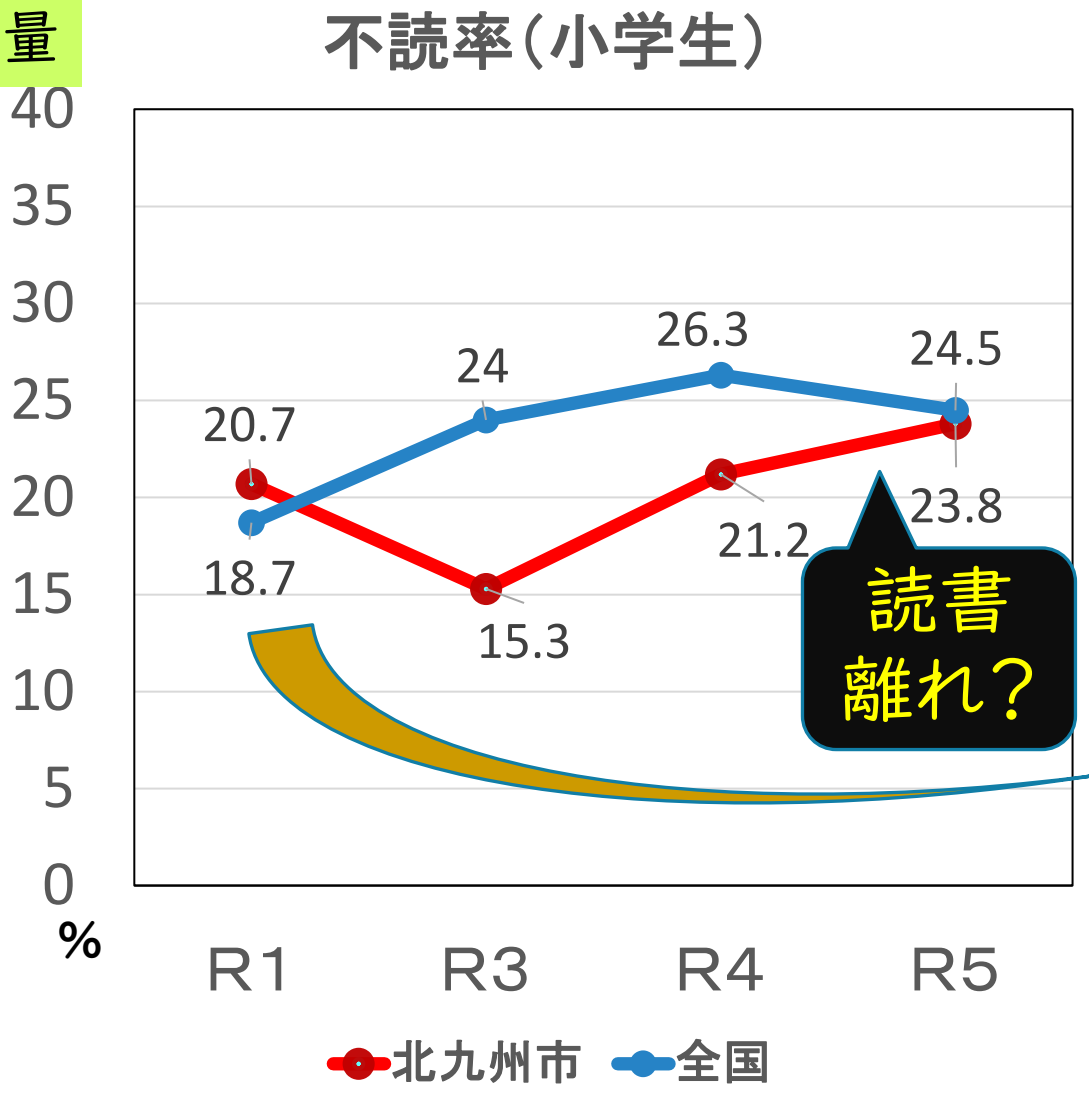
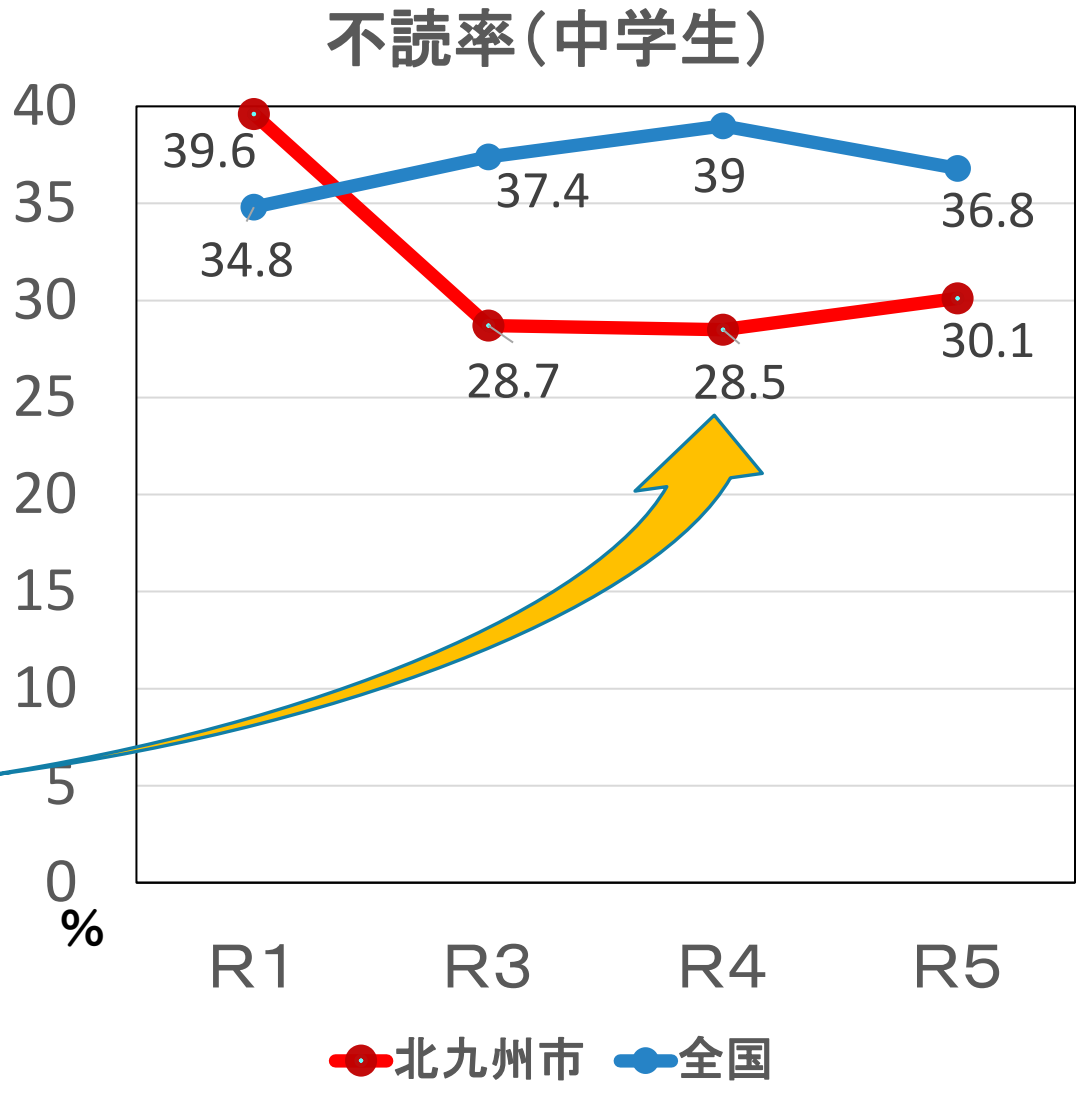
本市の子どもの読書活動の実態や意識から見られる今後の課題

～令和６年度第２回　子ども読書活動推進会議の振り返り

課題Ⅰ
読書量



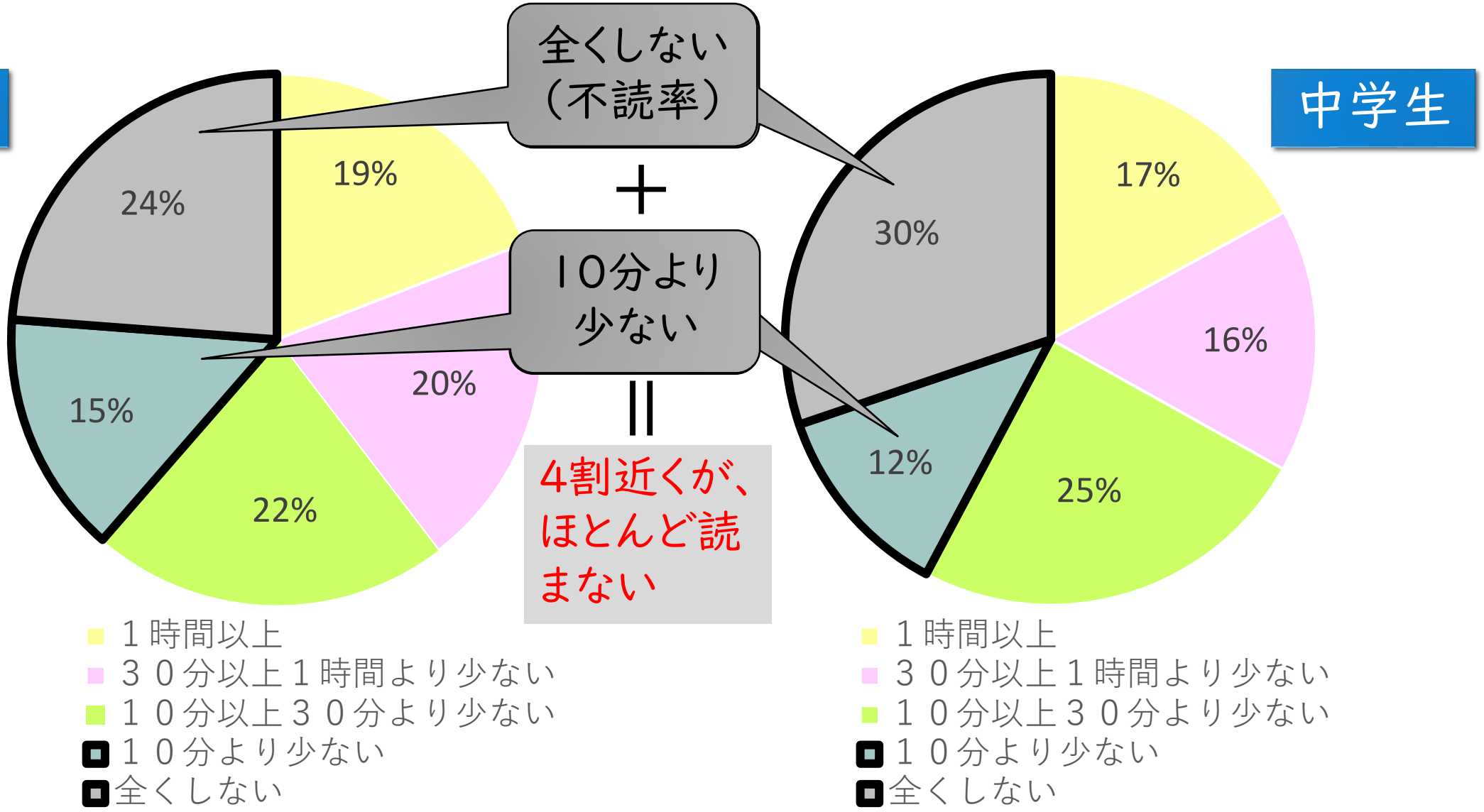


◆ 小学生は年々上昇している

◆ 学年が進むにしたがって
不読率が上がる

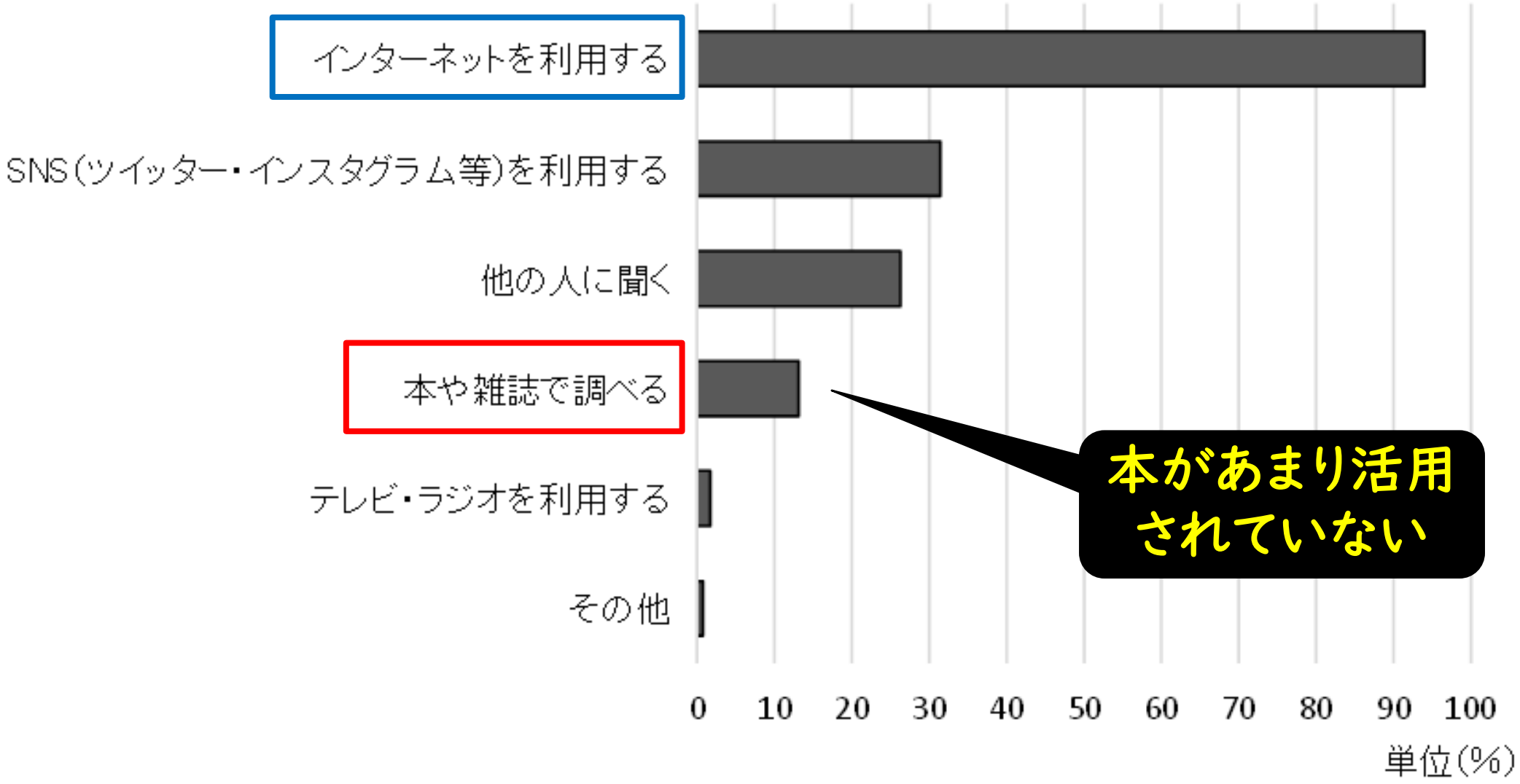
課題１
読書量

Ｑ 授業時間以外の１日当たりの読書量



課題Ⅰ
読書量

あなたは、何かをくわしく知りたいときに、どうやって調べていますか。



「これからの図書館のあり方」に関するアンケート結果より

＜課題１＞ 読書（量）

◆ 全く（ほとんど）本を読まない児童生徒が一定数いる

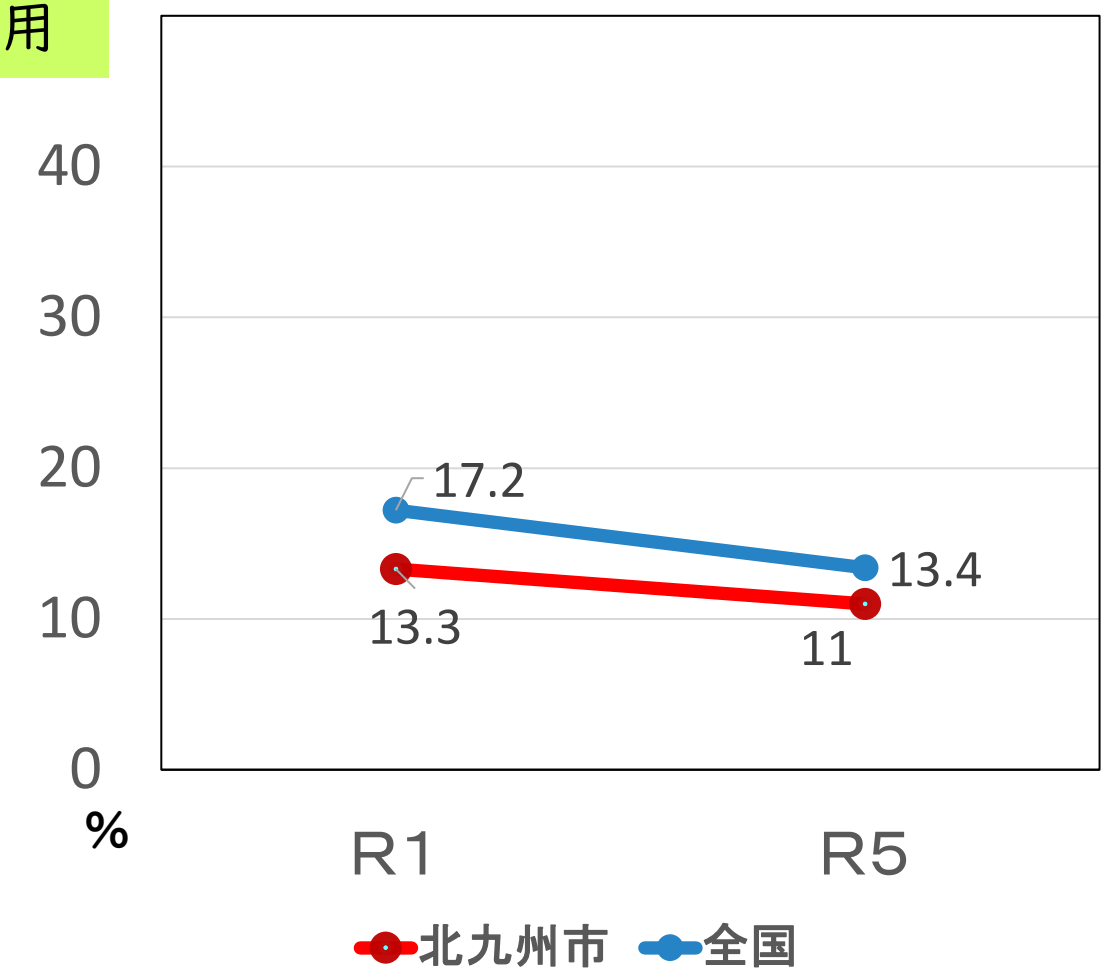
→ 読書離れを食い止める必要がある。
（各世代のニーズに合った本の充実など）

◆ 学習したり何かを調べたりする手段として、本を活用していない

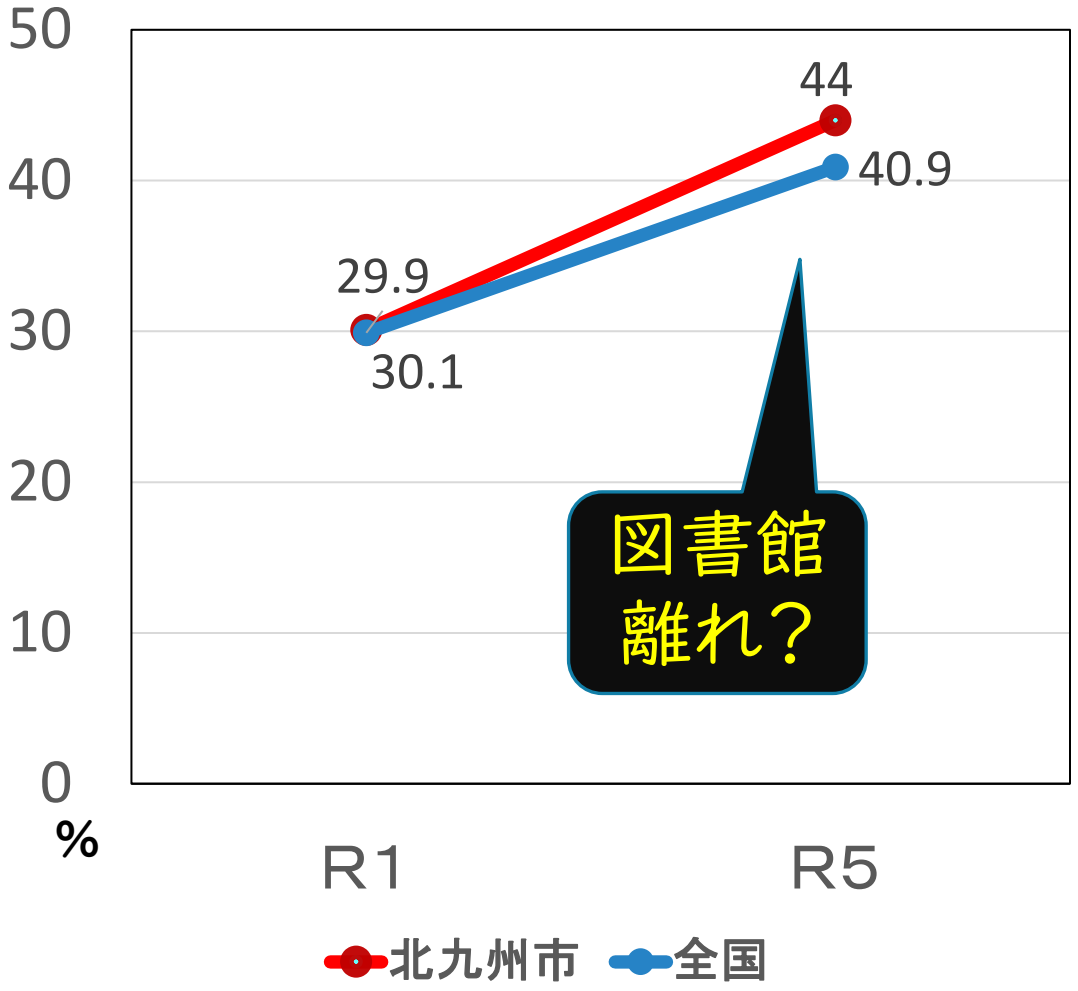
→ 本の活用の幅を広げる必要がある。

課題2
図書館
利用

週1回以上図書館を利用（小学生）



ほとんど・全く利用しない（小学生）



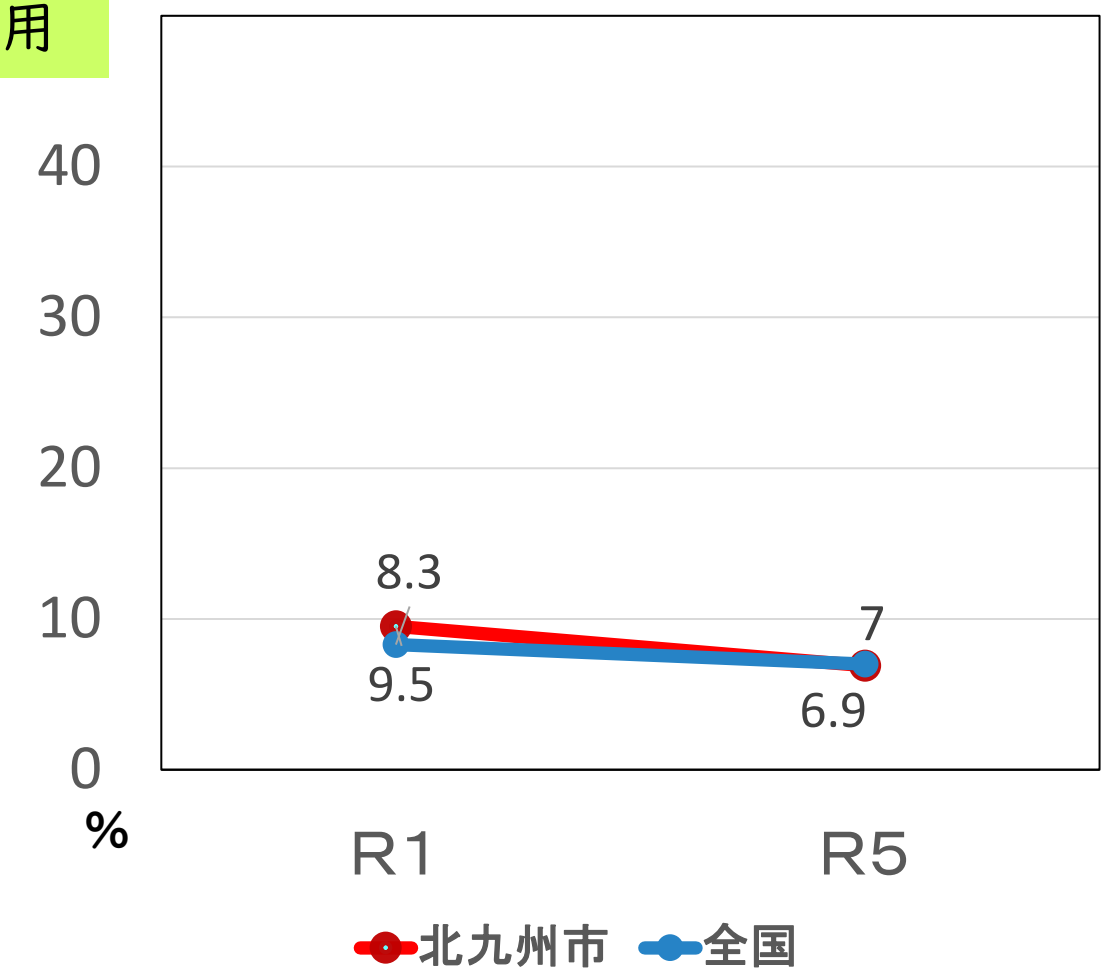
◆ 週1回以上は全国平均を下回る

◆ ほとんど利用しない小学生が増加

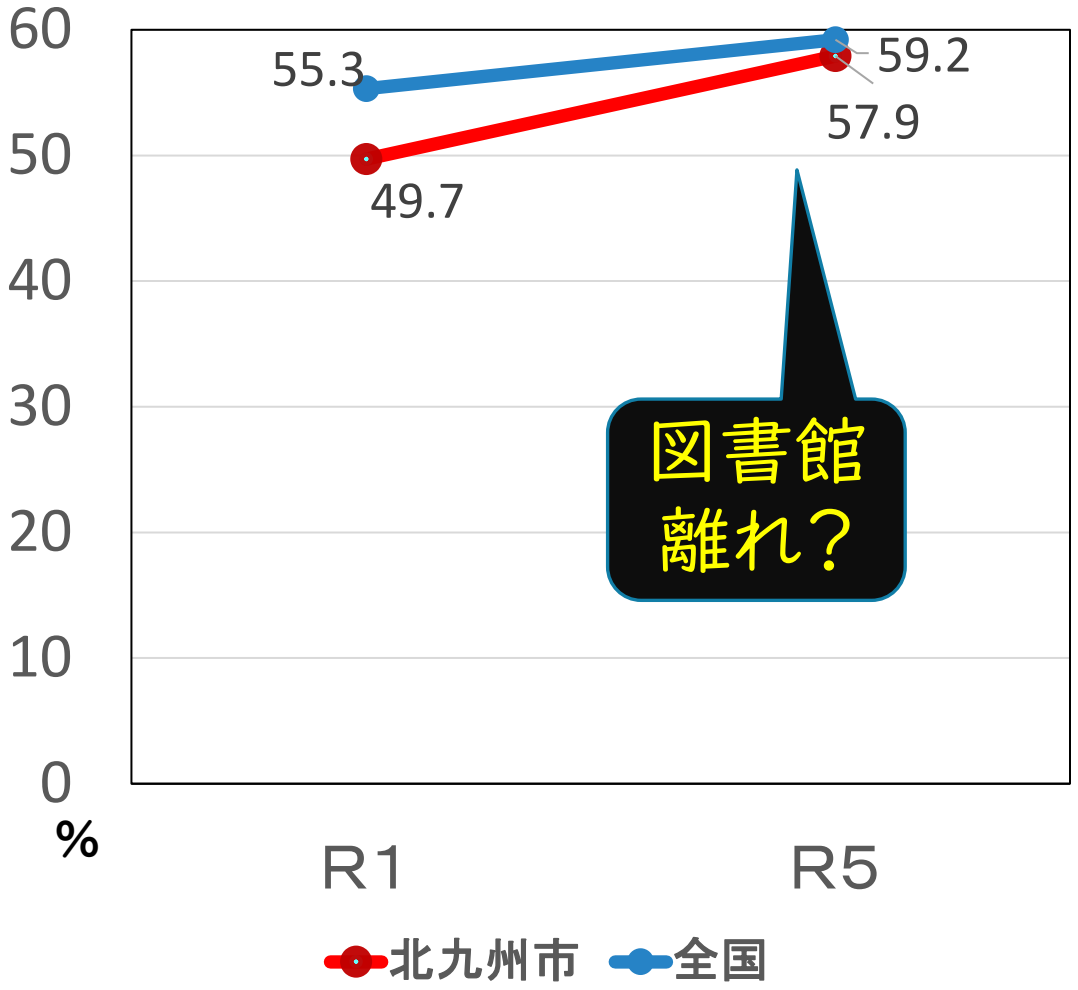
令和元年度・5年度実施　全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙より

課題2
図書館
利用

週1回以上図書館を利用（中学生）



ほとんど・全く利用しない（中学生）

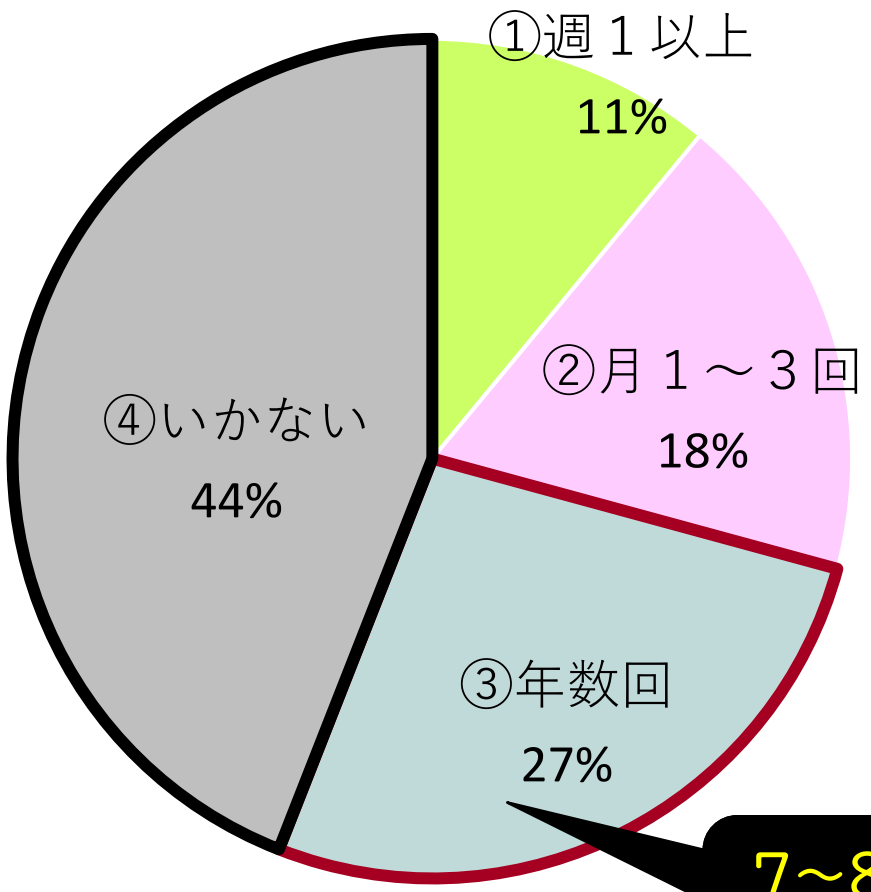


◇　利用しない割合は全国平均を下回る　◆　利用しない生徒は5割を超える

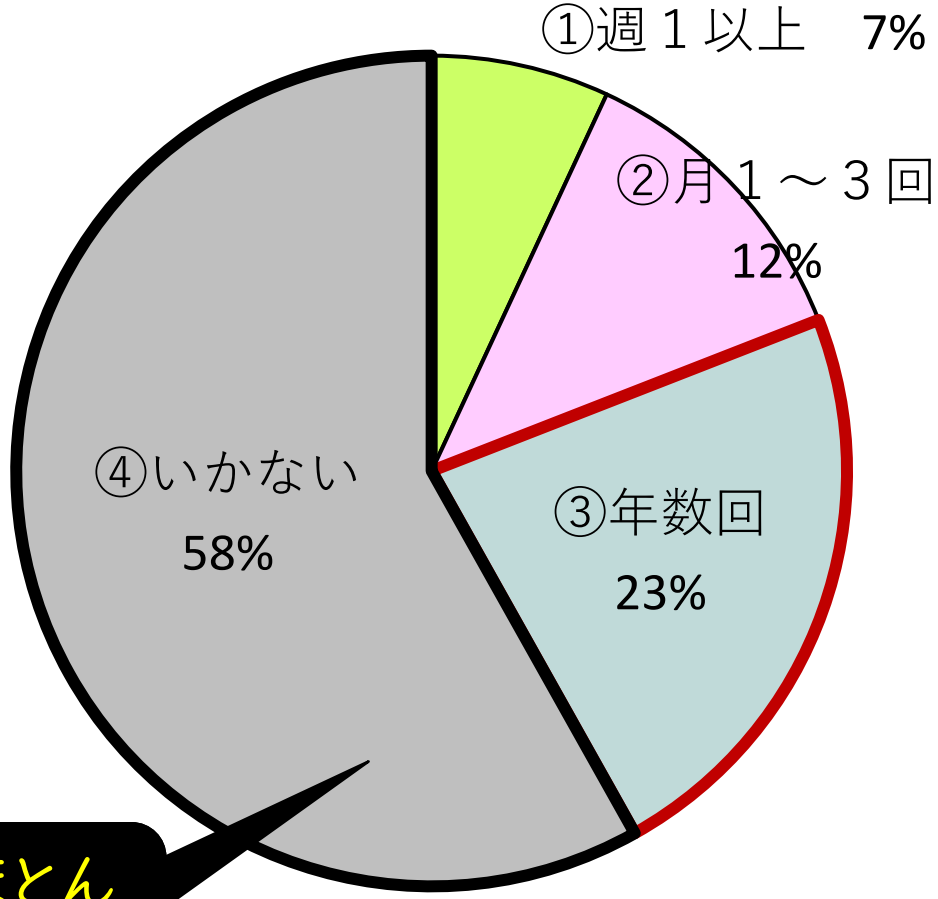
令和元年度・5年度実施　全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙より

課題2
図書館
利用

図書館利用頻度（小学6年生）



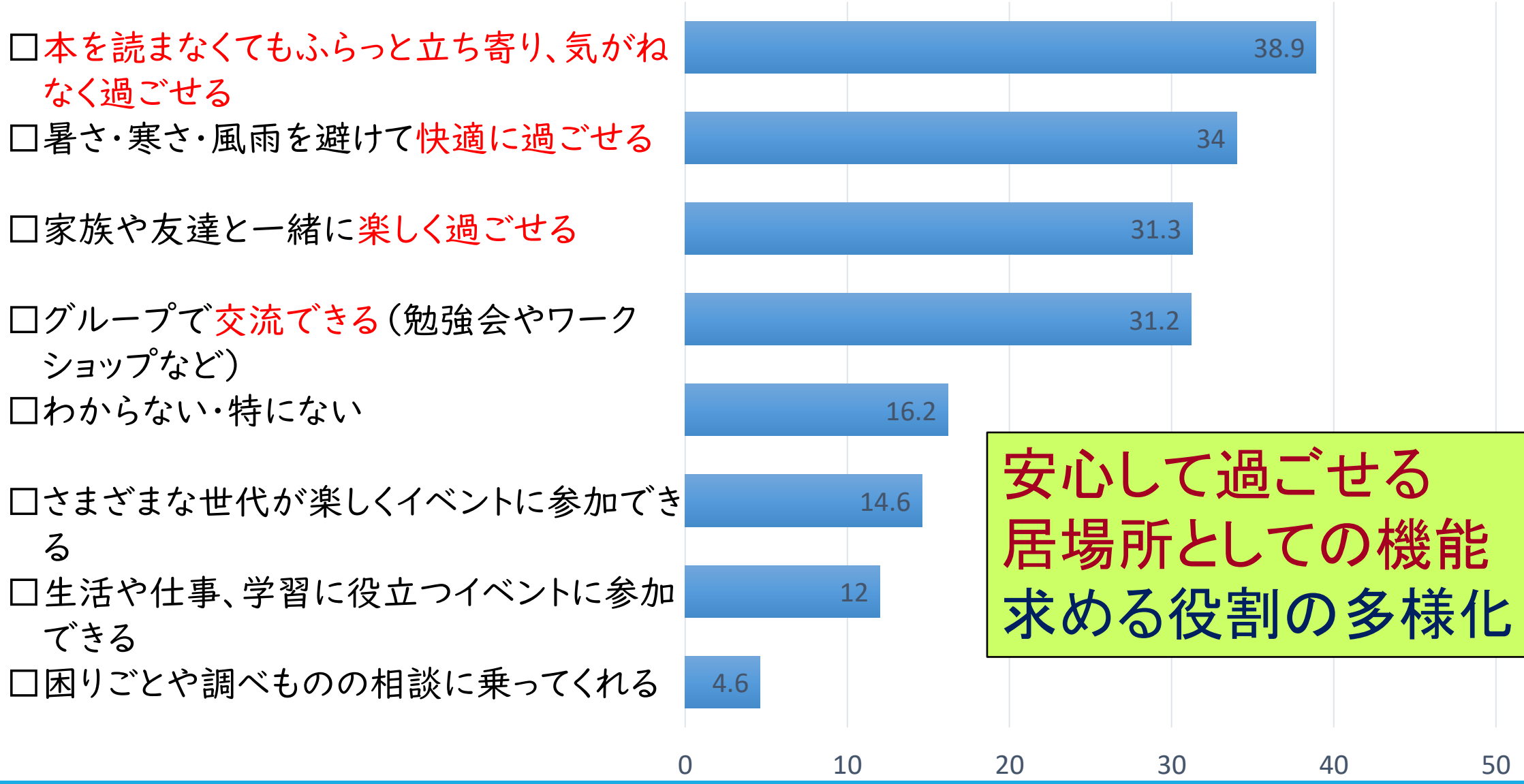
図書館利用頻度（中学3年生）



7～8割は、ほとんど利用していない

課題2 図書館利用

読書や貸し借り以外で図書館に求める役割　中高生



安心して過ごせる
居場所としての機能
求める役割の多様化

＜課題2＞ 図書館の利用

◆　図書館への利用頻度が少なく、
減少している
→ 図書館離れを食い止める必要がある。

◆　居場所としての役割などが求められている
→ ニーズの多様化への対応

課題が生じる理由や背景

＜課題1＞ 読書（量） → なぜ読まない
＜課題2＞ 図書館の利用 → なぜ利用しない

市立図書館を利用しない理由

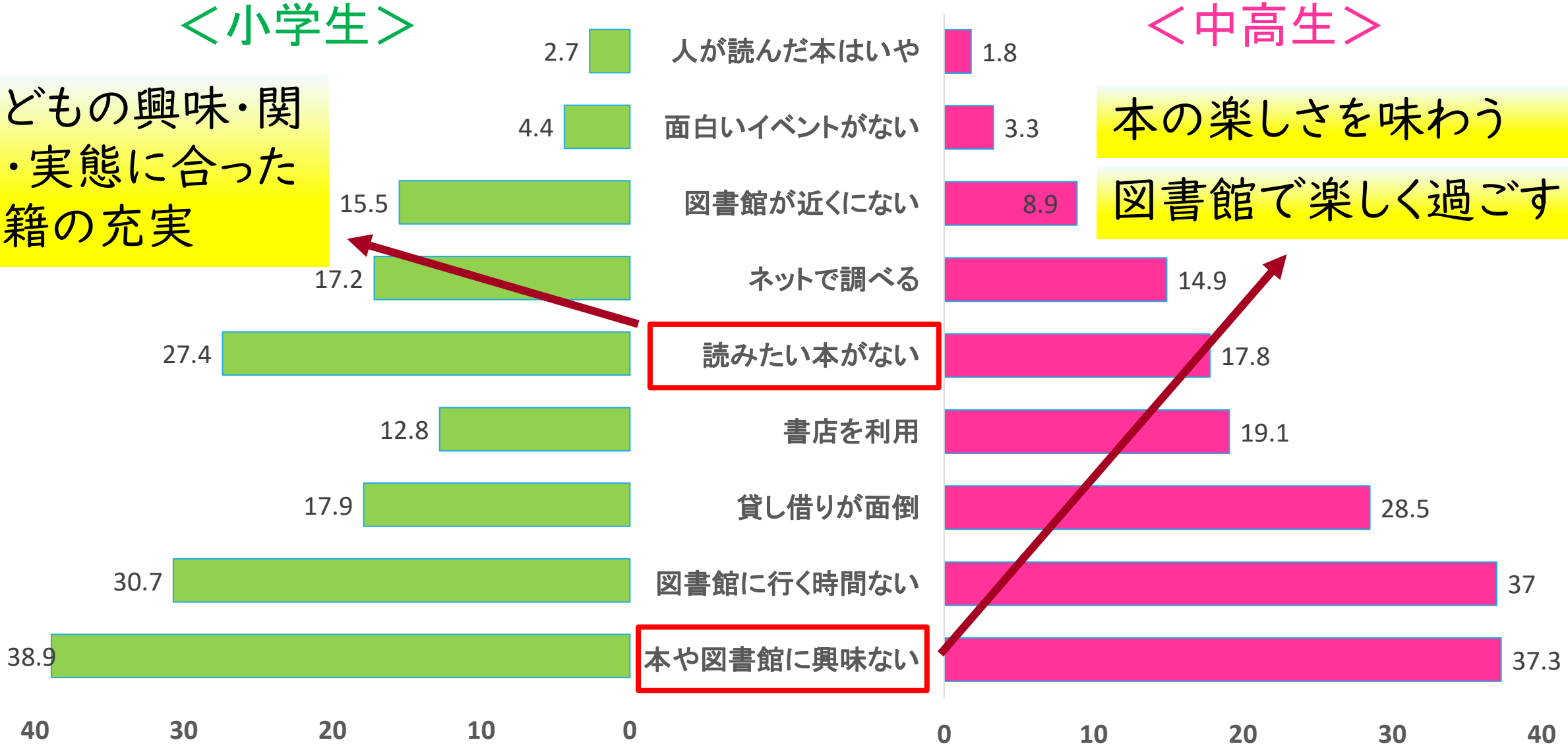
＜小学生＞

子どもの興味・関心・実態に合った書籍の充実

＜中高生＞

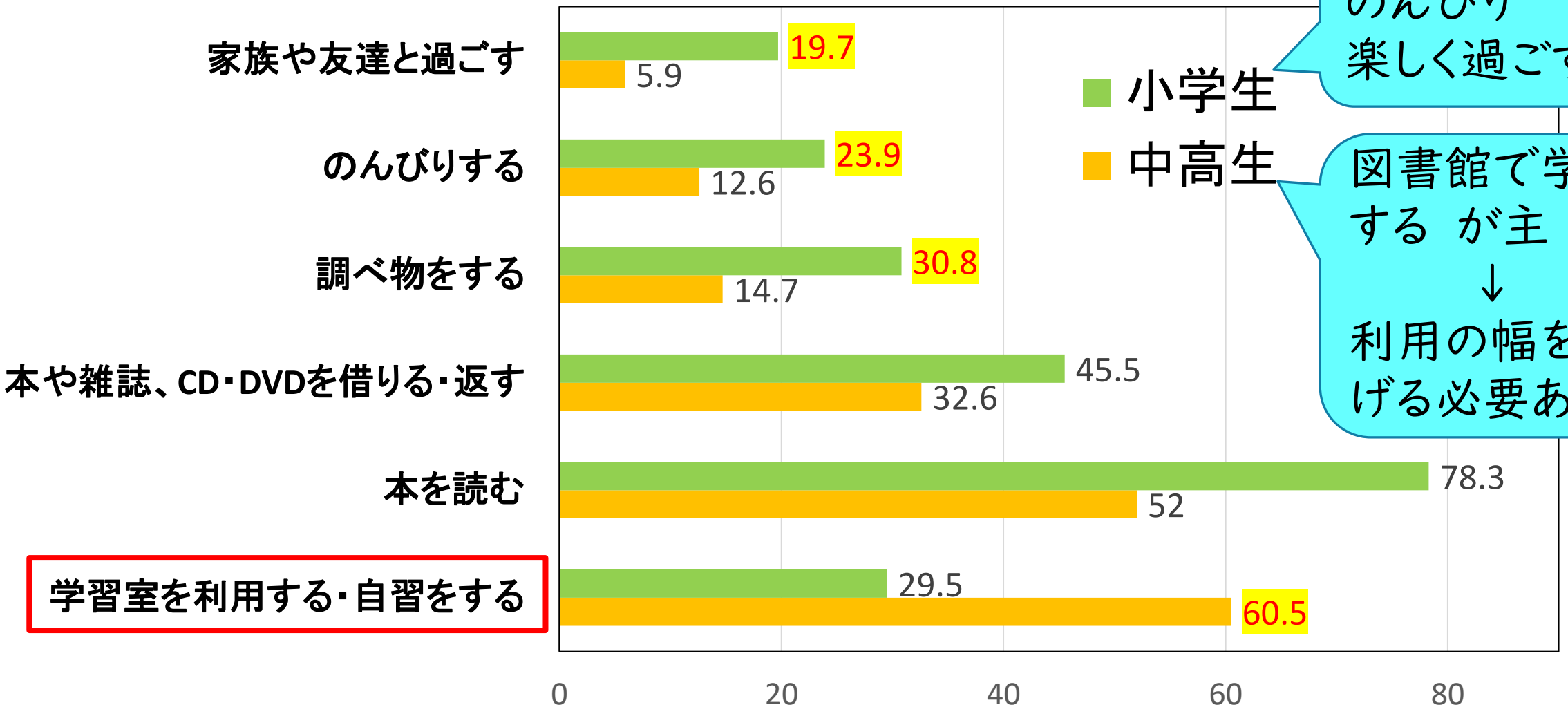
本の楽しさを味わう

図書館で楽しく過ごす



「これからの図書館のあり方」に関するアンケート結果より

図書館の主な利用目的



図書館で
のんびり
楽しく過ごす

図書館で学習
する　が主
↓
利用の幅を広
げる必要あり

＜課題1＞ 読書（量） → なぜ読まない
＜課題2＞ 図書館の利用 → なぜ利用しない

- 本に興味・関心がない
- 読みたい本がない
- 学習室の利用に偏る（特に中高生）

など

今後の方向性として
読書を通して「楽しさ」を実感
図書館の利用を「楽しむ」

キーワード
その1
楽しむ！

＜課題１＞ 読書（量）

◇ 学習したり何かを調べたりする手段としての本の活用（活用の幅を広げる）

その背景として

- ネットが中心のこどもの実態
- 第五次 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画
  基本方針 → 探究的な学習活動での活用等
- こどもまんなか教育プラン
  市民の学びや課題解決の支援等を行うとともに、学校とも連携して児童生徒の読書活動の推進を図る。
- 北九州市立図書館基本計画（R7～）
  目指す図書館像 → 学び、やすらぎ、つながる図書館

＜課題１＞ 読書（量）

◇ 学習したり何かを調べたりする手段としての本の活用（活用の幅を広げる）

その背景として

- 子どもの実態
- こどもまんなか教育プラン
- 北九州市立図書館基本計画などから

今後の方向性として

「本」を手段とした学びや課題解決への支援

キーワード その2

学ぶ！

＜課題2＞ 図書館利用

◇ 居場所としての役割

◇ 多様化するニーズへの対応

その背景は？

北九州市　こどもまんなか教育プラン

＜ミッション２＞ こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる

（４）社会に開かれた教育、学校外の学びや放課後活動の充実を進める

② 市民の学びを支える図書館の機能強化

○ 電子書籍の充実などの DXや読書バリアフリーの推進、多世代の居場所づくりなど多様なニーズに応えるとともに、安全・快適で誰もが利用しやすい施設の維持に努めます。

北九州市立図書館基本計画（R７～）

目指す図書館像

学び、やすらぎ、つながる図書館

＜課題2＞ 図書館利用

◇ 居場所としての役割

◇ 多様化するニーズへの対応

↓

- こどもまんなか教育プラン
- 北九州市立図書館基本計画 より

↓

今後の方向性として

安心してのんびり過ごせる居場所づくり（第3の居場所）

読書バリアフリーのさらなる促進

キーワード
その3！
やすらぐ！

これまでのまとめ

項目	実態・課題	背景	求められること	方向性 キーワード
読書	読書しない子ども 読書ばなれ	◆本への興味関心 ◆YAなど読みたい本	☆読書の楽しさを実感	楽しむ
図書館利用	図書館の利用頻度が少ない　図書館離れ	◆偏る利用目的 小：読む　中：学習室	☆もっと図書館を活用して、楽しんでもらう	
読書	学習手段としての本の活用が少ない	◆ネット中心 ◆課題解決　探究的な学習の必要性	☆本を手段とした学びへの支援	学ぶ
図書館利用	ニーズの多様化への対応	◆DX化・各種支援の要請 ◆安心・安全	☆第3の居場所 ☆読書バリアフリー	やすらぐ

次期プランの方向性

プランと各施策、子どもの実態などとの関係

めざす子どものすがた

すべての子どもが、日々の生活の中ですすんで本を手に取って読み、子ども同士や家族などと楽しく語り合う日常

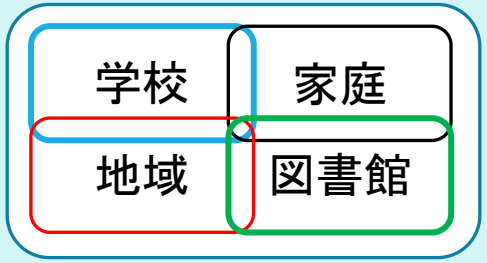
子どもを取りまく教育環境等の変化

＜国の施策＞

- 第五次基本計画
- 第六次学校図書館整備等5か年計画
- 読書バリアフリー法

新プラン

第五次子ども読書活動推進計画（R8～R12）



第四次子ども読書活動推進計画（R3～R7）

＜北九州市の施策＞

- 北九州市教育大綱
- 北九州市こどもまんなかプラン
- 北九州市立図書館基本計画

子どもを取りまく教育環境等の変化

読書活動における子どもたちの実態や意識

現行プランの全体像

ビジョン	目指す姿	すべての子どもが、日々の生活の中ですすんで本を手に取って読み、子ども同士や家族などと楽しく語り合う日常
ミッション	３つの方向性	**読書に親しむ**子どもを増やす（裾野を広げる） **読書の大切さ**を知る子どもを増やす（読書が大好きな子ども（コアファン）を増やす） **子どもの読書を支える大人**を増やす（読書好きの大人・家庭を増やす）
アクション	取組みの方針	**家庭**における読書活動の推進 **学校**における読書活動の推進 **市立図書館**における読書活動の推進 **地域**における読書活動の推進 読書活動の**普及啓発**の推進

北九州市図書館基本計画（R7より実施）

目指す姿：学び、やすらぎ、つながる図書館

目標	基本目標の項目
基本目標1	学びを支え、豊かなときを創造する図書館
基本目標2	誰もが利用しやすく、やすらげる図書館
基本目標3	多様な主体とつながり、共に成長する図書館
基本目標4	未来につなぐ図書館

北九州市図書館基本計画（R7より実施）

学び、やすらぎ、つながる図書館

関連付ける　課題などを踏まえる

新　子ども読書プランにおける3つの**方向性**

学び、
＜本で学ぼう＞

知識を広げ、心を豊かにし、自分自身の成長を促します

やすらぎ、
＜本を手にくつろごう＞

好きな本にふれながら、心安らぐひとときを提供します

楽しむ
＜読書を楽しもう＞

本に親しみながら、楽しい時間と豊かな生活を創出します

3つの方向性をもとに、基本方針を定める

生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するためには、乳幼児期から発達段階に応じた切れ目のない読書活動が行われることが重要である。

第五次　子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画より（抜粋）

発達段階（乳幼児期・小学生・中高生）ごとに、方針を重点化

〔乳幼児期〕

○　幼児は教師や友達と心を通わせる中で，絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けていく。（幼稚園教育要領）など

実態・・・年少→年長にかけて、家庭での読み聞かせ頻度・時間ともに減少傾向

☞　絵本や物語に親しむために、家庭の協力や関係機関相互の連携は不可欠

発達段階（乳幼児期・小学生・中高生）ごとに、方針を重点化

〔小学生〕

実態1・・・　本を「読まない」児童が、小3から20％を超える※1　学年ごとに増加
国語科の授業数　2年→315時間（9h/w）　3年→245時間（7h/w）
スマホの平均開始年齢　10．5歳（4年生）※2

☞　**特に低学年層　絵本から児童書へ移行する時期の子どもたちへのきめ細かな支援**

実態2・・・　不読率の上昇　「本に興味がない」「読みたい本がない」児童

☞　**読書の幅を広げ、本への興味・関心を高めるための取組**
日常的に本に親しむようにするための取組

※1　ベネッセ教育総合研究所　「子どもの生活と学びに関する親子調査」結果より
※2　モバイル社会研究所「2023年11月に実施した親と子に関する調査」結果より

発達段階（乳幼児期・小学生・中高生）ごとに、方針を重点化

〔中高生〕

実態 ・・・ 学習室中心の図書館の利用 → 学びの側面
居場所としての役割を求める声 → 第三の居場所の側面
読書離れ → 読書を楽しむ側面
その他（読書バリアフリーなど） → 〃

第五次基本計画より
子どもの視点に立った読書活動の推進
高校生が読書の必要性を真に感じ、主体的に読書に興味・関心を持てるような取組が必要

☞ 多様なニーズへの対応　主体的に読書活動に取り組める環境づくり

新プランに位置付ける3つの方向性

目指す姿

すべての子どもが、日々の生活の中ですすんで本を手に取って読み、子ども同士や家族などと楽しく語り合う日常・・・**継続する**

方向性

学び、
＜本で学ぼう＞
知識を広げ、心を豊かにし、自分自身の成長を促します

やすらぎ、
＜本を手にくつろごう＞
好きな本にふれながら、心安らぐひとときを提供します

楽しむ
＜読書を楽しもう＞
本に親しみながら、楽しい時間と豊かな生活を創出します

取組みの方針

発達段階（乳幼児期・小学生・中高生）ごとに、方針を重点化

〔乳幼児期〕
早期に本に親しむ習慣がつくよう、家庭や関係機関相互の連携を深める

〔小学生〕
絵本から児童書への円滑な移行をすすめる
読書の幅を広げ、日常的に読書に親しめるようにする

〔中高生〕
多様な目的に応じて、主体的に図書館や本を利活用できるようにする

- 家庭における読書活動の推進
- 学校における読書活動の推進
- 図書館における読書活動の推進
- 地域における読書活動の推進

それぞれ個別の取組を推進（新たな取り組み　目玉となる取り組みを検討）